

「周辺商店街の若手が集まって地域に密着した活動を」

徳山商店連合協同組合青年部 会長 松山 尚史
副会長 四宮 紀之

松山：皆さん、こんにちわ。

徳山商店連合協同組合青年部会長の松山です。

活動事例発表ということですが、最初に徳山商店連合協同組合青年部が結成された経緯についてご説明させていただきたいと思います。

まず、徳山駅前周辺に5つの商店街がございまして、3年ほど前までは互いに切磋琢磨し、イベント等を各商店街対応でやっておりました。しかし、近年、郊外の大型店にお客様が流れるという状況で果たしてこのままで商店街はいいのかという話になり、各商店街の若手が集まって一つの団体を約3年前に結成したわけです。結成後は各商店街が実施していたイベントを徳山商店連合協同組合青年部がすべて引き受けて実施しています。

結成してよかった点は、やはり若手同士の意思疎通が図れるようになり、イベントの実施もスムーズに事が運ぶようになりました。各商店街の組合理事長も、青年部にイベント等をすべて一任していただいていますので、非常に風通しがよくなったという感じがします。では詳細について副会長の四宮の方からご説明させていただきます。

四宮：改めまして、皆さん、こんにちわ。

徳山商店連合協同組合青年部副会長の四宮です。

先程、松山会長の方からご説明したように、今まで各単組でイベントを実施していたものを一つに集約して行っております。周南市徳山の中心市街地といわれるのが110ヘクタールございまして、その中のコアの部分、我々の管轄部分が35ヘクタールございます。

御存じのように、現在、商店街はどこも非常に苦戦しております。徳山も例外ではございません。しかし、幸い徳山には新幹線の停まる徳山駅があります。平成16年度も乗降客が1日平均2万人を上回っております。それをうまく利用できないかということで、周南市の顔としての徳山駅、その徳山駅周辺の商店街というコンセプトのもとに活動しています。

今までは我々、各単組でやっていたものを、商店街だけでなく行政の方、それから商工会議所の方々と連携しながらやっています。その活動のコンセプトの一つが情報発信事業です。これはホームページを作成がメインとなります。今まで商店街は印刷物をたくさん作っていましたが、空き店舗の増加や配布先が少ないということもあって、なかなか認知していただけませんでした。そこで、それをデジタル化しプリントアウトして配布することによりコストの削減を図っています。配布先の増大も考えており、全部で450箇所に配布を予定しています。それからもう一つが『バイ徳山運動』です。

これは、徳山へとにかく来て買っていただくということです。

足を運んでいただくためにはどうしたらいいかということで、昔から徳山には7つの神様がいて、その一つが今の商店街にあるえびす様ということで、それをおまつりした『えびす市』を去年立ち上げ、毎月やっています。そして、これを通じて新商品の開発を商店街の中で行っていただくことで神様のシンボルマークを募集しキャリアデザイン専門学校の生徒さんの作品に決まりました。そのシンボルマークがもうすぐ皆さんの前にお披露目する事になっています。

これからは地域密着でないと、もう生き残れないというところに来ています。それを踏まえて、今後活動をしていきたいと思っています。

今後の活動についてですが徳山駅の周辺整備事業というのが、周南市を中心に実施されています。それに対して我々も勉強しながら、少しでも我々の意見を取り入れていただけたらなと思っています。

以上でございます。

松山：皆様方の活動の参考になるかどうかわかりませんが、以上をもちまして事例発表とさせていただきます。

我が青年部は非常にポジティブな考え方のメンバーばかりですので、とにかく前向きに、これから明るい未来が待っていると信じてがんばっていきたいと思いますので、これからも応援の程よろしく願いいたします。ご静聴ありがとうございました。